

秋こそ静かなあの山へ

もう一度、

屋久島

大村嘉正(文) 榎山正一(写真)
なみへくみんちゅ(おどな女子登山部)モデル

こんな屋久島の姿、
見たことなかった！

何度訪れても新たな発見や体験に出会う山は、この日本にいくつあるでしょう。世界自然遺産屋久島の山並みはまちがいなくそのひとつ。とくに秋の屋久島は、いい意味で期待を裏切ってくれるもの。比較的晴天に恵まれるし気温も快適。そして観光客が一段落するため、静かな森歩きを楽しめます。取材班は「ひと月に35日間雨が降る」屋久島とはちがう表情に出会うチャンスを求めて、海を渡りました。そしてこの日、森林限界を越えた私たちに、洋上のアルプスは微笑んだのです。



ヤクシマ、驚異の森

これぞ屋久島！生命力あふれる森に歓迎される

「とにかく縄文杉へ」を卒業している私たちは、南から北への宮之浦岳縦走を選択。縄文杉に会うのは最終日のお楽しみです。さて、淀川登山口から歩き始めるとまもなく、そこは不思議な、ファンタジーのような植物の王国。モミやヒメシャラ、ハリギリといった巨樹の天蓋を通りぬけた光の道が、苔むした森を照らします。屋久島グリーンに染まる私たち。縦走1日目、フレッシュな心と身体を、森の生命の気配が包み込んでいく。



淀川登山口～淀川小屋の森は、霧や雲に包まれることが多い。木も岩もコケやシダに覆われ、靈気ただよう緑の魔境といった雰囲気に



足をとめ遊びたくなる 屋久島の自然

異形の巨樹に触れる、倒木や岩を覆い尽くすコケにカメラを向けるなど、退屈とは無縁の（そしてコースタイムを気にして歩くのは愚かな気がする）山歩きに。クライミングにはまっているなみへ～は、屋久島がボルダーランドだったことを再確認。くみんちゅを巻き込んで、巨岩との戯れがやめられないようです。



多様な植物が覆う山 それは共存？闘い？

森に抱かれるイメージの屋久島登山。でも、原生自然を見渡せる登山もあります。まるでしつらえたような岩の展望台に立てば、森の主の気分。さまざまな種類の草木が大地に根を下ろしたり、巨樹に相乗りしながら枝葉を伸ばしています。私たちには静寂の森ですが、光や養分を奪い合う弱肉強食の世界なのかも。